特色のある学びに関する取組紹介～高等学校～

学びの改革支援課

■　学校×KDDI共創プロジェクト

令和２年度から、包括連携協定を締結したKDDI株式会社と連携・協働し、学校単独では実施困難な「生徒主体の特色ある取組」を共に創り上げ、実現することを目指す本プロジェクトをのべ８校で行ってきました。本年度は新たな試みとしてKDDI株式会社のビジネスノウハウや事業内容を盛り込んだ連携授業を飯山高校、伊那北高校、松本深志高校で実施しています。

その一つとして、９月15日（金）に伊那北高校で、「南極から地域の将来について考える」をテーマに、地域特有の課題解決に向けて、環境・社会・経済のバランスに配慮したビジネスを考案するための講義とワークショップを行いました。対象は理数科の１年生で、講師にはKDDI株式会社から阿部公樹(あべ　こうき)氏をお招きしました。阿部氏はKDDI株式会社に入社後、2020年から第62次南極観測隊に参加し、2022年には世界初となる南極からのリアルタイムによる８Ｋ映像の伝送に成功しています。冒頭の講義では、阿部氏が南極観測隊の業務や南極の環境保全に関する体験談を語り、その後生徒は実際に南極の氷に触れ、気泡がはじける音を体感しました。

SDGs未来都市に指定されている伊那市では、ドローンを使って商品を届けるビジネスによって、中山間部で生活する住民の不自由さの課題解決に繋げています。講義の後は、その事例を参考に、生徒たちは理想的な地域の姿を描いた上で、現状の課題を挙げ、解決に向けた具体的なビジネスについてグループで考え、発表し合うワークショップを行いました。

■　「信州つばさプロジェクト」県企画プログラム

本事業では、長野県の高校生が、信州に根ざした確かなアイデンティティと、世界に通じる国際的視野をもち、将来世界で活躍できるよう、社会全体で留学気運を盛り上げる仕組みをつくり、県と民間、協働で高校生の海外留学を支援することを目標に掲げています。事業の実施内容は大きく３つです。海外留学への第１歩として、４つのコースから１つを選んで参加する「県企画プログラム」（計80名参加）、明確な目的と意志を持つ生徒に対して留学費用の一部を支援する「個人留学支援プログラム」、帰国後に自らの留学の意義や成果を積極的に発信し、留学に向けた気運の醸成に寄与する「ウィングシェアプログラム」です。

９月16日（土）に「県企画プログラム」へ参加予定の生徒と保護者が一堂に会し、松本市勤労者福祉センターで結団式を行いました。全体会では事業の趣旨・概要説明に続いて、昨年度本企画へ参加した松本県ケ丘高校の渡邉咲奈(わたなべ　さきな)さんが、今年度の参加者へエールを送りました。渡邉さんの「私が昨年度このプロジェクトで味わった素晴らしい体験を、今年度参加する皆さんたちにも是非味わってもらいたい」という言葉に対し、参加の高校生たちはみな深く頷き、傾聴する姿が窺えました。そして、最後に今年度の参加者代表である小諸高校の中村碧彩(なかむら　あおい)さんが力強く決意の言葉を述べ、全体会を閉じました。その後、４つのコースごとに自己紹介をした後、担当する旅行業者から日程等の説明を受けました。

この後数回の事前学習会を経て、10月23日（月）からのSTEAMコースを皮切りに、４つのコースに参加する生徒たちは、広く海外へと飛び立ち、学びのフィールドを世界へと拡げていきます。